

サステナビリティ経営方針

和弘食品株式会社は **SUSTAINABLE SOUP COMPANY**（サステナブル スープ カンパニー）として事業を通じ環境保全・循環型社会の実現に貢献するとともに、自社を取り巻く全てのステークホルダーとの対話及び人的資本経営を強化し、北海道の恵みとともに新しい価値を創造・発信していくことで、「**ラーメンスープを北海道から世界へ**」の達成を目指します。



ラーメンスープを北海道から世界へ

事業に影響を与える環境変化

環境

- ・脱炭素に向けた社会変化
- ・自然災害の激甚化
- ・自然保護への規制強化
- ・循環経済の加速

社会

- ・人口減少・少子高齢化
- ・価値観やライフスタイルの変化
- ・世帯構造・社会構造の変化
- ・働き方改革の進展

ガバナンス

- ・サプライチェーンの見直し
- ・新型コロナによる産業構造の変化
- ・消費者の情報収集経路及び嗜好の多様化
- ・サイバー攻撃の増加
- ・企業の社会的責任に対する重要性の高まり

Materiality (重要課題)

取り組み内容

主なステーク ホルダー



環境保全・循環型社会の実現

- ・地域・社会・環境に配慮した商品開発
- ・脱炭素・気候変動への対応
- ・廃棄ロス削減

地球環境・株主・取引先・
地域社会



北海道の恵みとともに ～共通価値の創造～

- ・北海道食材を活用した高付加価値商品の開発による食文化の魅力発信
- ・サステナブルな原料確保に向けた技術開発

取引先・地域社会



人的資本経営の高度化

- ・人材育成の強化
- ・働きやすい職場環境の整備
- ・ハラスメントの撲滅
- ・ダイバーシティーの推進

従業員



サステナビリティガバナンスの 推進

- ・サステナビリティ情報開示の強化
- ・コンプライアンス・情報管理体制強化

株主・従業員・取引先

環境

私たちは地球環境問題を経営上の重要な課題の一つとして認識し、持続可能な社会の実現に向け、事業活動において環境保全および汚染の予防に取り組みます。

【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・ 冷蔵・冷凍不要な常温保管スープ製品の開発・販売
- ・ サステナブル包材の導入
- ・ 太陽光発電等再生可能エネルギー導入の検討
- ・ 消費期限の長期化によるロス抑制



重要課題	取組内容	目標とKPI
環境保全・ 循環型社会の実現	地域・社会・環境に 配慮した商品開発	■ 2026年度までに廃棄ロス抑制に寄与するアップサイクル商品を5件開発する ■ 2025年度までに当社としての方向性を定め、方針に沿って2030年度までに順次変更する。
	脱炭素・気候変動への対応	■ 2026年度までに紙使用量を2024年度対比で10%削減する ■ 2027年度までにscope1・2におけるCO2排出量を可視化し、2019年度比の削減量を決定する
	廃棄ロス削減	2030年度までに廃棄物量を2024年度比で50%削減する

経済・ガバナンス

私たちは、経営の客観性・透明性を高め、コンプライアンス体制の強化・充実を推進することを通じて、企業価値の向上を目指します。

【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・ FSSC22000に準拠した衛生管理・品質管理
- ・ 災害用備品の充実や安否確認ツールの導入・強化による安全性向上



重要課題	取組内容	目標とKPI
サステナビリティ ガバナンスの推進	コンプライアンス・ 情報管理体制強化	■ 2025年度までに全社の情報セキュリティ管理ルールを全面刷新する
	ESG経営、非財務情報開示の強化	■ 2027年度までにサステナビリティレポートを策定する

社会・地域

私たちは、持続可能な世界を目指し、社会からの期待に応え、企業市民としての責任を果たすために人権を尊重し、誰もが安心して働ける環境をつくるとともに、事業を通じた社会への還元を行っています。

【SDGs達成に向けた具体的な取り組み】

- ・フレックスタイム、テレワーク勤務、育児休業等、多様な働き方に対応した制度の推進
- ・DX化の促進による付加価値の高い働き方の推進
- ・勤怠管理の強化による、適切な労働時間の推進
- ・地域イベントの積極的な参加および支援活動の強化
- ・こども食堂やフードバンクを通じた食品支援



重要課題	取組内容	目標とKPI
北海道の 恵みとともに ～共通価値の創造～	北海道食材を活用した高付加価値商品の開発による食文化の魅力発信	■ 2027年度までに「北海道の恵みシリーズ」として6品の販売を開始する
	サステナブルな原料確保に向けた技術開発	■ 2030年度までに産学官連携による研究にもとづく技術開発を5件行う

重要課題	取組内容	目標とKPI
人的資本経営の 高度化	ハラスメントの撲滅	■ 毎年度2回ハラスメント研修を実施する
	ダイバーシティーの推進	■ 2025年度以降、育児休業取得率70%を実現し、維持する ■ 2026年度までに、女性管理職割合5.0%を実現する
	人材育成の強化	■ 2026年度までに、海外市場開拓の知見がある専門人材を1名以上採用または育成する ■ 毎年度4回リーダー人材育成のための研修を実施する
	働きやすい職場環境の整備	■ 2027年度までに、人事評価制度のブラッシュアップを行う ■ 毎年度組織診断を実施し、従業員のエンゲージメントを把握する

2025年度 重要課題別 取組実績



2025年度総括：4つの重要課題すべてでKPIに沿った取組を進め、環境・商品・人材・ガバナンスの各領域で一定の進捗が見られました。2026年度も、目標達成に向けて着実に歩みを進めてまいります。

環境保全・循環型社会の実現

取組内容	KPI	2025年度実績
地域・社会・環境に配慮した商品開発	2026年度までに廃棄ロス抑制に寄与するアップサイクル商品を5件開発する 2025年度までに当社としての方向性を定め、方針に沿って2030年度までに順次変更する	アップサイクル商品1件開発済（1件試作中）。サステナブル原料調達ガイドライン策定済。環境配慮包材を導入済。
脱炭素・気候変動への対応	2026年度までに紙使用量を2024年度対比で10%削減する 2027年度までにscope1・2におけるCO2排出量を可視化し、2019年度比の削減量を決定する	紙使用量8.3%削減。Scope1・2の可視化は完了。CO2排出量は2019年度比26.2%削減。
廃棄ロス削減	2030年度までに廃棄物量を2024年度比で50%削減する	廃棄物量を約40%削減

人的資本経営の高度化

取組内容	KPI	2025年度実績
ハラスメントの撲滅	毎年度2回ハラスメント研修を実施する	ハラスメント研修を2回実施済
ダイバーシティの推進	2025年度以降、育児休業取得率70%を実現し、維持する 2026年度までに、女性管理職割合5.0%を実現する	育児休業取得率37.5%。女性管理職比率3.5%。
人材育成の強化	2026年度までに、海外市場開拓の知見がある専門人材を1名以上採用または育成する - 毎年度4回リーダー人材育成のための研修を実施する	海外市場開拓人材2名を育成中 リーダー人材研修は6回実施
働きやすい職場環境の整備	2027年度までに、人事評価制度のブラッシュアップを行う - 毎年度組織診断を実施し、従業員のエンゲージメントを把握する	人事評価制度は見直しを進行中。 組織診断は毎年度実施済。

北海道の恵みとともに ～共通価値の創造～

取組内容	KPI	2025年度実績
北海道食材を活用した高付加価値商品の開発による食文化の魅力発信	2027年度までに「北海道の恵みシリーズ」として6品の販売を開始する	「北海道の恵みシリーズ」1品を販売開始。高付加価値商品は開発中。
サステナブルな原料確保に向けた技術開発	2030年度までに産学官連携による研究にもとづく技術開発を5件行う	産学官連携による技術開発を1件実施

サステナビリティガバナンスの推進

取組内容	KPI	2025年度実績
コンプライアンス・情報管理体制強化	2025年度までに全社の情報セキュリティ管理ルールを全面刷新する	情報セキュリティ管理ルールは改定を協議中
ESG経営、非財務情報開示の強化	2027年度までにサステナビリティレポートを策定する	サステナビリティレポート（サマリー版）を公表

2026年度の重点取組み

サステナビリティ経営方針に掲げる全16項目について、人的資本経営の高度化および環境保全・循環型社会の実現を中心に着実に成果を積み上げています。

2026年度以降は、以下の重点取組みを軸に、四半期ごとの進捗確認を通じて計画的に取り組みを推進してまいります。

2026年度の重点取組み

- ① 情報セキュリティ管理ルールの全面刷新／AI活用等の技術革新に伴う検討範囲の拡大を踏まえ、リスク管理委員会で方針を再定義し、各部署の実態に即したルールへ落とし込みます。
- ② アップサイクル商品（目標5件）／試作は順調に進行。サプライヤー・製造工場とともに供給体制を具体化します。
- ③ 紙使用量10％削減（2024年度対比・現状8.3％削減）／ペーパーレス化ツールの導入を進め、目標達成を目指します。
- ④ 女性管理職割合5.0％（2025年度実績3.5％）／登用プロセスを計画的に推進し、2026年度内の達成を目指します。
- ⑤ 海外市場開拓専門人材の確保・育成／WAKOU USA派遣による実務研修を継続し、社員の海外派遣・教育を主軸とした中長期的な体制を構築します。